

編集後記

編集委員

委員長

藤田 郁代

副委員長

立石 雅子

今井 智子

内田 信也

宇野 彰

勝木 準

倉内 紀子

倉知 雅子

佐藤 睦子

城間 将江

鈴木 恵子

関 啓子

玉井 ふみ

長谷川 賢一

春原 則子

深浦 順一

藤原 百合

水田 秀子

矢守 麻奈

今号には、第6回言語聴覚研究優秀論文賞を受賞された深水峰子氏の随想が掲載されています。本賞は(社)日本言語聴覚士協会における研究活動推進事業の一環として、特に若手研究者の研究活動を奨励し、優れた研究成果を表彰するために設けられました。受賞対象となるのは筆頭著者が40歳未満で、過去2年間に本誌に掲載された原著論文です。この賞は2010年に設置され、これまでに6名の方が受賞されています。どの受賞者もその後、学会で演題発表を活発になされ、論文執筆も継続されており、その姿を拝見するたびに心強く思っています。

言語聴覚障害学分野は、20～30歳代の言語聴覚士が75%を占め、年齢分布が若年層に偏っています。これは国家資格が1997年に成立し、その後、養成校が急激に増えたことによります。それから約18年が経過し、今やその養成校を卒業した方々が本分野の中核を担うようになってきましたが、このような方々の臨床・研究活動について少し気になることがあります。それは、わが国の言語聴覚士は諸外国の言語聴覚士と比較して、研究への取り組みが少ないことです。これは研究技能を修得する大学院への進学率の低さにも現れています。わが国でも看護学分野では大学卒業者の約2割が大学院に進学するといわれますが、本分野の大学院進学率はまだ高くありません。また学術専門誌への投稿論文数も少ないのが現状です。臨床の質の向上には研究との融合が欠かせません。本誌の優秀論文賞が若手研究者の研究活動の活発化につながることを期待したいと思います。

今号には、失書(石井由起氏)と嚥下障害(藤原葉子氏、高橋美貴氏)に関する原著論文が掲載されており、いずれも非常に興味深い研究です。また「現場、最前線」では米国でSLPの資格を取得された田宮愛氏のレポートが掲載されており、今後、海外留学を目指す方々への参考になるとものと思われます。(藤田郁代)

言語聴覚研究(第12巻 第4号)2015年12月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町6-29 アクロポリス東京9階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2015, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23(振替口座00170-9-96693番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)